合唱団ホームページアドレス http://www.wiengifu.org

音楽とは 横への感性なり！

10 月号
2017年10月1日
編集・発行/
ウィーン岐阜合唱団

岐阜の街 ウィーンの如く 音楽し（おとたの）

作:音楽総監督 平光 保

第20回ウィーン岐阜合唱団 定期演奏会を鑑賞して

＝ヴィヴァルディの演奏について思う＝ 田丸且行先生からの寄稿です

どうしても ヴィヴァルディの四季の演奏に触れたくなった。

イムジチやベルリンフィルの樫本大新の演奏に馴染んだ僕の耳に身贔屓（みびいき）かもわからないが「これぞ わが日本人の演奏する 四季」だと、心の奥底に共鳴するものがあった。特にピアノの菅原氏の秋の 2 楽章の本来はチェンバロだが、それをピアノで表現した細やかなアルペシオには戦慄してしまった。伴和子氏の冬の歌や平光真彌氏のヴァイオリンや平光保氏の棒の奥底には狩猟民族、一神教の持つ情念やエネルギーとは更に別の魂が宿っているのを感じた。それは言ってみれば、言い換えれば（アニミズム）あらゆるものに精霊（魂）が宿るという神仏習合（やおろずの神）的感受性が醸し出す豊かな愛を感じさす（たおやか）と言う言葉の持つ世界かも知れない。限りなく深い広い世界へと意識や感受性が拡大していく。ベートーヴェンの田園交響曲はお馴染みの曲だが、その冒頭に「田舎に着いた時の愉快な気分」と記したのかが納得出来る気がする。単なる情景描写から抜け出した世界を描きたかったのではなかろうか。小鳥や嵐の場面は誰にでもわかるようなベートーヴェンのサービス精神がもたらしたものだろうと思う。最後の嵐が過ぎ去った後の感謝のメロディは彼の自然観や人間性をよく表していると思った。この境地を感得出来る力はヨーロッパとは違った感受性を持つ我々日本人の心の細やかな襞（感性）を持ち合わす豊かさを示しているのではないだろうか。改めてじっくり聴いてみたい。これは偏狭なナショナリズムではない。「音楽は 横への感性」という言葉をしみじみと噛み締める今日の演奏だった。それにしても、平光氏や伴氏の客席へのサービス精神はベートーヴェンを彷彿とさせる。

僕のコンサートにはよく出かける指揮者の燕尾服の汚れを、楽員が払う場面は初めて見た。酔っ払う演奏を聞かせる為のビールを飲む演技も圧巻。

思わず僕も喉を鳴らした。千両役者万歳！

訃　報

合唱団創設当時から私たちを温かく見守って下さいました上山重男先生が去る８月２８日に天国へ召されました。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

尚、貴重な意見、アドヴァイス等を戴いた事柄が上山語録として冊子に纏めてあります。購読希望されたい方は編集部の坪内さんまでお申し込み下さい。（無料）

平光保先生“古希”おめでとうございます。

岐阜本部 ソプラノ 新田 ひとみ

ゆく夏を惜しむかのように、蜩が鳴き始めたころ、「ウィーン岐阜ホールときめき」において、平光先生の古希を祝うコンサートが開催されました。

したたる汗を拭いつつ、はやる思いでホールに入ると、扉の中は別世界。ブダペストMAV交響楽団との大演奏会の映像が流れ、私たちをハンガリーへといざないます。

平光先生は、「幾度となく誕生日を迎えたが、古希の祝いがこんなにうれしいものか。大勢のお客様で感激している。これからはおまけの人生。肩の力を抜いて楽しく生きたい。」と、歓迎の挨拶をされました。

また、合唱団からのお祝いを手にされ、団員一人一人への感謝の気持ちを述べられました。

第一部は伴和子先生の独唱とピアノ独奏

「付知峡」「ゴールデンゲイトセメトリー」です。郷土を愛する短歌や、息子を思う母の心情を綴った詩に、曲をつけられたことを紹介されました。

情感豊かな和子先生の歌のなかに、平光先生もご存命のお母様を偲ばれているようでした。

さらに、トスカより「歌に生き恋に生き」運命の力より「神よ、平和を与えたまえ」と続き、ピアノ独奏へと進んでいきます。

独奏曲はシューマンの「飛翔」ショパンの「子犬のワルツ」です。人前での演奏は初めてと、緊張しきりの和子先生に、熱い視線が集まります。

「この曲には人生のすべてが入っている。苦あれば楽あり。努力の先に見えてくる光に導かれた、自分の人生と重なる。」と、身に迫る言葉と脱力がなす奇跡の演奏に、酔いしれました。

第二部は伴真由子先生の独唱

「アヴェマリア」他3曲です。神秘な湖を思わせるエメラルドのドレスに身を包み、あたかも祈りを捧げる妖精のように、そっと肩に舞い降ります。聖なる歌声に心が洗われ、天界を貫く響きに魂が揺さぶられます。

さてここで、伴奏のお役目を終えられ、いよいよ平光先生のピアノ独奏「Sieben Variationen」です。

手にされた古い楽譜には、「1966.11.21完成　12．8本番」と記してありました。それは今から50年も前、学生時代に作られたものでした。

人より遅れた劣等生が本番約2週間前にやっと完成させ、なんと学内演奏会に作曲科代表として輝いた処女出世作！セピアにあせた譜面から繰り出される熱情の音楽に息をのみ、目くるめく思いに引き込まれます。

複雑な旋律は、先生の若き日の原点を炙り出し、苦悶のうなり声となって押し寄せます。

「落ちこぼれの自分も、この曲をもって初めて目の色が変わった。この曲があるから今がある。」と、努力の裏に隠された追憶の日々を、しみじみと語られました。

音楽人生の幕開けを成した貴重な作品に聴き入り、感動を越え不思議な静寂さえ感じました。

さらに和子先生と真由子先生（＋あうらちゃん）の二重唱では、息の合ったハーモニーに魅了しました。

熱唱中のお二人を横目に、思わずあくびが漏れるあうらちゃん。将来は大物ソリストの予感が漂います。

演奏会の結びでお二人は、平光先生との出会いが、人生の大きな転機となったことへの、感謝と尊敬の意を伝えられました。音楽家としての偉業のみならず、先生のお人柄までもがにじみ出ます。

人の生き方を左右するほどの運命的な出会い…

その深さ重さは違っても、実は私たちも日常の中にそれと似た経験をしている気がします。

なぜなら、私はこの合唱団で歌う楽しさを蘇らせ、それまでより豊かな生き方になったと思うからです。

純粋に歌が好きな人が集い、音楽性に溢れるウィーン岐阜合唱団に身を置く幸せを感じています。

平光先生の弛みない歩みは、結団20周年を迎えたウィーン岐阜合唱団の歴史であり、常に私たちもそこにあり続けます。

祝賀の席で“指揮の技術は教えられても、人間性までは教えられない。棒を下ろした瞬間に、あなたの人間性が出る”と、先生がかつての師から諭された言葉が胸に残ります。私も皆様のご指導を受け、自分らしさと歌の心が表現できる感性を、磨いていきたいと思います。

70年目に巡り会ったときめきの記念日。**平安と和みに満ちた、永遠の光を保つ真心コンサート**でした。

平光先生初め伴和子先生・真由子先生のご健康と、ウィーン岐阜合唱団のますますの発展を祈念致します。

フォーレ様と私の200日　その１

初心者＆初体験のつぶやき

岐阜本部 アルト 藤田 眞智子

憧れ続けた運命の日：７月３０日の初舞台。何しろ人生初体験の偉業？に挑もうとする私です。集合・打合せ・ゲネプロ・着替え・登壇・本番のオケマン登場！何と私は舞台の上。マエストロが正装して目の前に。練習で見慣れているのになぜか目がウルル。Re-qui-em ae-ter-nam　2 拍休むんですよ、心の中で別の声が聞こえます。そして感動のフィナーレ　re-qui-ｅｍ　先生の指先が下りるまで拍手なしよ・・・・２００日でこんな感動を得る体験を与えて下さいました平光先生はじめ伴和子先生・真由子先生・菅原先生に先ずは心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

厳しい練習の中でも団員の笑い声がありの体質には、平光先生のお人柄を感じ、また、和子先生の愛くるしい笑顔に相反する厳しい熱意と気迫に加えてストローでの指導、菅原先生のお惚け風貌からは想像できないピアノタッチの凄さと根気よさ、個性あふれる三人の先生方に対して敬愛の念に堪えない思いです。又、当日の真由子先生の笑顔で歌う姿勢と声を飛ばす方向性は私に新たな示唆を与えて下さいました．初心者の入門をお許しいただいた私はやる気満々のこの半年。今静かに振り返ってみれば、何と恥ずかしい行動を多々してきたことか！

反省を込めて 2～3 つぶやいてみました。

その①　神聖なる「ウィーン岐阜合唱団」の門を平気で叩いたこと。

恐る恐るドアを開けた私、お元気な声の清水さんから抱きかかえられるような歓迎を受けて先ずビックリ。ソプラノパートリーダーさんの間に席を決められ、見たこともない専門の楽譜を貸し出され・・・ああ！　何と美しい声！ 強烈ビックリポン・・・その時の「Ⅲ-SANCTUS」の旋律。雷に打たれたかの如き心に響いて、ああ！！フォーレ様に恋をした瞬間でした。帰りにまた清水さんから「楽譜と CD 買って、楽譜無いと歌えないからね」まるで、洗脳された人形のようにお財布出していました。

その②　敷居高いナ･･･と思いつつ、次の週チヤッカリと参加。入会の手続きしてしまいました。

何と、入門テストがあったのです。平光先生が別室で「ふるさと」歌ってみて・・・え？　練習もなしで？「うさぎ　おいしかのやま～」何だそんな歌か・・・アルトからやりなさい。てな訳で「アルト」さんの仲間入り、こんな へタッピが入ってご迷惑かけます。

その③　パート練習に入っても声は出ません･･･無理よネ。落ち込んだ 120 分でした。でもでも、底上げ教室なるものがあったのです。え？　変なネーミングと思いました。初日、伴先生に「声を出してみて」ピアノに合わせて「ド・ミ・ソ・ド」中学校以来じゃないかしら？　心臓パクパク、天使ならぬ身ながら天界まで舞い上がった気持ちでした。そんな私の緊張した様子に気づいた先生。先ず、歌う姿勢から。直立不動ではダメ、足は肩幅に開く、膝や肩の力を抜いて、手はダラリ下げて、横隔膜を意識して、顔は笑顔、目は遠くを見てそこに声を飛ばす気持ち。判ったけど？　不可能です。体幹をしっかりさせる・・・とかで「つま先立」根がマジメ？パート練習の間じゅう実行しました。その夜、夜 2 時間、足が釣って眠れませんでした。

それ以来、「フォーレ様々」君一筋の夢のような半年感でした。寝ても覚めてもフォーレ様への恋心はン？歳になろうとしても尚覚めやらぬ・・・人間って何と可愛いものでしょう。でも、恋心だけで上手くなれる筈もなく、私なりに努力し工夫した練習法はまた次の機会に・・・・。

【全ての部分で気持ちを込めて　丁寧に言い直す】そのような心を込めた表現を望まれた平光先生の本心が、果たして本番の舞台で表現出来、お客様の心をつかむことが出来るでしょうか。フォーレ様！！　私たちの合唱力・・・果たして何点かしら？　天界の恋人にインタビューしてきました。彼は目を閉じ、腕組み、隣でシューベルト様が手を振って・・・そういえば私の耳にも？が 2 ヶ所。でも、下界では、翌日の中日新聞にも紹介され、聴いて下さったお客様には概ね好評。自己評価や如何に？

さあ。次は 20 年間憧れた「第九」です。私の恋の遍歴も超多忙！！　皆々様、よろしくネ

10～12月練習予定

練習時間は18：45～20：45です。(18：30には集合しましょう！！)

月　日	岐　阜	月　日	大　垣
10月　5日(木)	長森コミュニティーセンター	10月　6日(金)	大垣市南地区センター
10月12日(木)	長森コミュニティーセンター	10月13日(金)	大垣市南地区センター
10月19日(木)	長森コミュニティーセンター	10月20日(金)	大垣市南地区センター
10月26日(木)	長森コミュニティーセンター	10月27日(金)	大垣市南地区センター
11月　2日(木)	長森コミュニティーセンター	11月　3日(祭)	大垣市南地区センター
11月　9日(木)	北部コミュニティーセンター	11月10日(金)	大垣市青年の家
11月16日(木)	北部コミュニティーセンター	11月17日(金)	大垣市南地区センター
11月23日(祭)	長森コミュニティーセンター	11月24日(金)	大垣市南地区センター
11月30日(木)	長森コミュニティーセンター	12月　1日(金)	大垣市南地区センター
12月　7日(木)	長森コミュニティーセンター	12月　8日(金)	大垣市南地区センター
12月14日(木)	長森コミュニティーセンター	12月15日(金)	大垣市南地区センター

12月17日(日)　岐阜・大垣強化練習　長森コミュニティーセンター14:00～17:00

12月21日(木)　岐阜・大垣合同練習　大垣北地区センター18:30～20:00 オケ合わせ

12月23日(土)　岐阜・大垣強化練習　岩野田北公民館　14:00～17:00(最終確認)

12月24日(日)　"第九"演奏会本番　長良川国際会議場メイン会場　14:00 開演

魔法使い「マエストロ　ヒラミツ」

岐阜本部　テナー　田中　常隆

スポーツという言葉から誰しもが最初に連想するのはオリンピックだと思われますが、オリンピックと芸術は切っても切り離せないものがあるようです。

実際にオリンピック憲章には芸術祭の開催が義務づけられている正式行事で、かっては「芸術競技」として、音楽や彫刻、詩歌や建築設計などの順位が争われたこともあったそうです。そもそも「スポーツと芸術」には密接な関係があり、古代ギリシアのオリンポスの祭典では、神々の美しい身体に近づこうとする行為（スポーツ）が、神々を讃える行為（音楽や美術や彫刻）とともに行われたということです。2012 年のロンドンオリンピックでは開会式にベルリン・フィルハーモニーの指揮者サイモン・ラトルやビートルズの元のメンバーのリンゴ・スターが登場しましたし、1998 年の長野オリンピックでは小澤征爾さんが音楽アドバイザーとなり、開会式で世界各地の主要都市を衛星中継で結び、ベートーヴェンの「第九交響曲」を演奏しました。

ところで、男が一生のうちで一度はしてみたい仕事は、スポーツチームの監督とオーケストラの指揮者であるということを聞いたことがありますが、たまたまサッカーチームの監督とオーケストラの指揮者の対談記事を目にすることがありました。

『いやあ、指揮者ってたいへんですね』

『いやいや、監督業のほうがもっと大変でしょう』

・・・・・・・・・・・・・・・・

『指揮者って、魔法使いみたいですね』

『そう見えますか。そう見えるのなら、うれしいですね』

『監督業も同じじゃないですか？』

『そう言われれば・・・同じですね』

神々の力強く美しい身体に近づこうとして誕生したスポーツと神々の美しい栄光を讃えるところから生まれた音楽（芸術）、その両者が融合するのは当然ですが、そのどちらの指揮官も「魔法使い」だったようです。

さて、ウィーン岐阜合唱団は「魔法使い　マエストロ　ヒラミツ」の魔法によって、これから先もどんな美しいハーモニーを紡いでいけるのでしょうか。